



農のまち、たかすの歩み

現在は、稲作のほかにきゅうりの産地としても知られている鷹栖町。開拓初期から昭和の時代にかけて、今では目にすることが少ないさまざまな特用作物が作付けされていた。郷土資料館に残された資料などから、どのような作物が栽培されてきたのか、その移り変わりを探ります。



①除虫菊の栽培の様子。

—— 時代の変化と共に移り変わった作物 ——

明治25年に開村された鷹栖村。開拓初期、入植者の多くは畑作として大麦や小豆を作付けしていました。

明治28年になると、山梨県より団体で移住してきた者たちが、大麦や小豆などと比べ売り上げが高く、寒地や高台地帯での栽培に適していると言われた「亜麻」に興味を持ち、彼らを中心に村の特用作物として作付けを始めました。

翌年の明治29年には、鷹栖村で最初の集団栽培として約百二十五町歩を作付け。それから数十年に渡り、北海道亜麻製綿株式会社との契約栽培が行われ、夏には薄紫色の花が開拓地一面に咲いていたと言われています。

日清・日露戦争当時は軍需物資（天幕・被服）として、大正期には飛行機の資材（翼張り）として重要なものとされましたが、第二次世界大戦後、化学繊維の普及により、作付面積が減少しました。

はっけ
亜麻、薄荷、除虫菊等
食用以外のことだよ



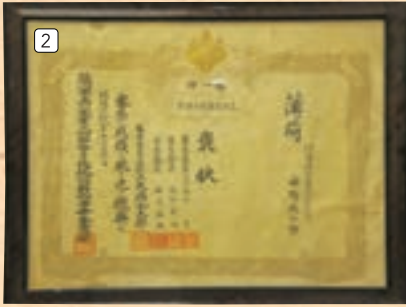
除虫菊

特用作物とは

工芸作物や薬用作物のように、食用以外の特別な用途のために栽培・加工される農作物のことです。



村の特用作物として亜麻の栽培が始まった頃、鷹栖町で初めて「薄荷」が試作されました。きっかけは、上川の永山村で、石山 伝右衛門らが山形県から種根を持ち込み、栽培した薄荷の製油を搾取し始めたこととされています。



②上川農業品評会の薄荷部門で入賞した西野儀三郎の賞状。

その後、山形県から移住した者たちが主となり石狩川沿いの畑に栽培され、一時は薄荷を製油にするための小屋（薄荷小屋）が数十箇所も建てられました。

製油にする際に、小屋の中で燃料の薪を使用していたため、「よく薄荷小屋で火事が起きた」との話も伝わっています。

明治45年頃には、市場で品薄となり、業者間での買付競争が起き高値となったため、作付面積は急速に増えましたが、第一次世界大戦が始まると、雑穀が高値となり、薄荷から豆類へ作付転換がされるようになりました。

薄荷は再び品薄となり、業者による買占めが行われるようになりました。買占めを失敗し、倒産する業者も出たため、薄荷の市場取引は投機的な性格があるとされ、北海道などから栽培を控えるように指導され、薄荷の作付面積は減少していきました。

大正12年頃からは「除虫菊」の栽培が始まりました。排水がよければ、やせ地や丘陵地でも容易に生産することができたため、主産地だった和寒村から栽培方法が伝わると、北成地区、知遠別地区や大成地区の傾斜地で栽培されました。7月には、雪が降ったかのように白い花で彩られ、知遠別地区では夏の風物詩となっていました。

除虫菊は、農薬としての効果があり、昭和の初めから20年ごろまで主要な畑作物として作付けされていましたが、戦争で人手が不足し、畑は荒廃していきました。

戦後は、化学薬品が普及したため、除虫菊の需要は急速に減り、昭和30年頃には、知遠別地区からも姿を消しました。

このように、時代の流れと共にさまざまな特用作物を栽培、加工してきた鷹栖町。現在では、特用作物に変わり、「米」、「きゅうり」などの食用作物やトマトジュース「オオカミの桃」の原材料用の「トマト」が作付けされています。

開拓初期から「米」以外にも多種多様な農作物を栽培してきた、農業のまち 鷹栖町。今後も基幹産業農業の発展に向け、さらなる挑戦は続きます。



③明治時代に除虫菊が栽培されていた知遠別。

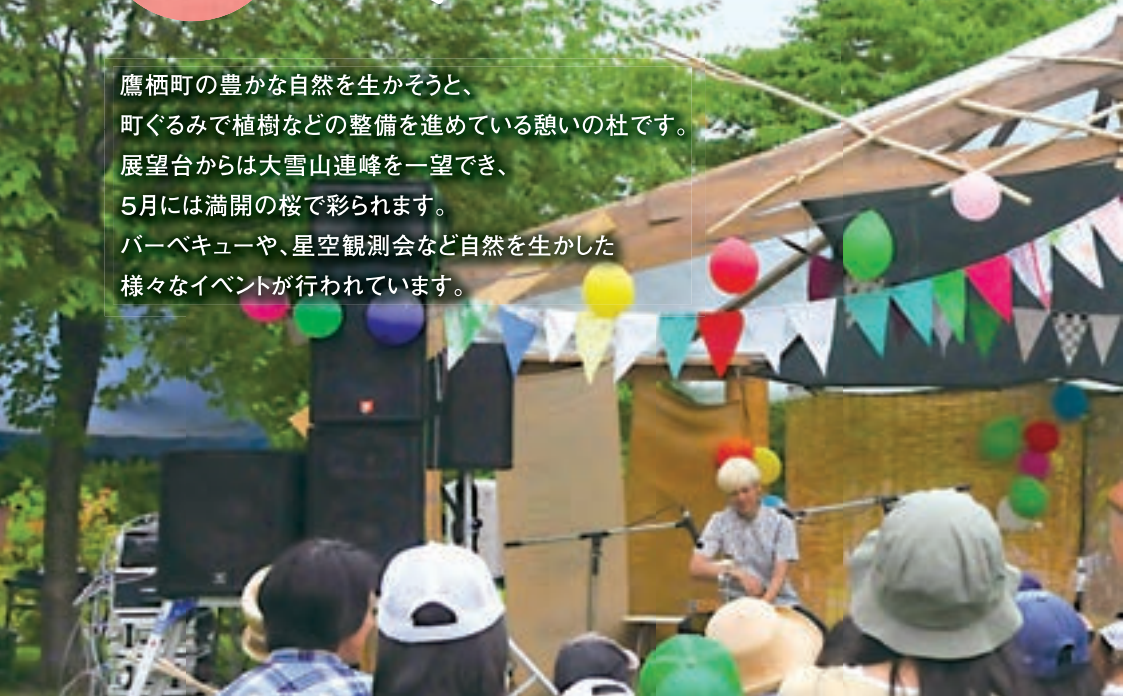
Enjoy Spot

みんなで楽しむ
憩いの杜

自然の中での楽しみがいっぱい!

パレットヒルズ

鷹栖町の豊かな自然を生かそうと、町ぐるみで植樹などの整備を進めている憩いの杜です。展望台からは大雪山連峰を一望でき、5月には満開の桜で彩られます。バーベキューや、星空観測会など自然を生かした様々なイベントが行われています。



キャンプやパークゴルフも レクリエーションゾーン



豊富な自然の中でデイキャンプやパークゴルフなど軽スポーツを楽しむ区域。夏には星空観測会なども開催しています。また、パークゴルフ場の建物裏手では、キャンプを楽しめます。

イベントが盛りだくさん! 多目的ゾーン



桜の木に囲まれた、芝生の区域。バーベキューを楽しむ『さくらフェスタ』や音楽イベント『ハレバパレット』、写真教室といったイベントの会場として利用されています。

管理棟



休憩スペースや
トイレがある管理棟も
出来たよ!

キッチンガーデン



センター ゾーン

遊水施設



掴み取って
お持ち帰りできますので、
管理者へ一言
お声がけください。



たかすイチのビュースポット! 丘の上の見晴ゾーン



晴れた日には大雪山連峰が一望できる、絶好のフオスポツト。山座同定盤の標識が設置してあり、目の前に広がる旭岳、十勝岳などの山々の名前が一目でわかります。鷹栖町を代表するビュースポットです。

2,000本の桜が咲き誇る 桜の杜ゾーン



住民参加型の植樹により、春は桜、秋は紅葉の観賞を楽しめる区域。シーズンになると2,000本もの桜が咲き誇る様子が見られます。幻想的な光景の「夜桜ライトアップ」は必見。シーズンは多くの観光客が訪れます。

「Event Information」

たかすの イベント 情報

四季それぞれの違いがはっきりとしている北海道。

ここ鷹栖町も、季節を楽しむさまざまなイベントを開催しています。

さくらフェスタ

5月
中旬

春

桜の名所「パレットヒルズ」で開催されるお花見イベント。満開の桜が咲き誇る場所で、町自慢の鷹栖牛やエゾシカ肉のバーベキューが堪能できます。会場内で肉を買った人には七輪と炭を無料で貸出ししています。子ども向けのゲームなども行っており、家族で楽しめるイベントです。また、桜が満開の時期には夜桜のライトアップも行っています。

☎0166-87-2111 (鷹栖町総務企画課)

☎0166-87-2210 (鷹栖町観光協会)

たかすジョギングフェスティバル

6月
下旬

「健康をさがそう」を合言葉に、初夏の美しい田園風景が広がる町内を走ります。コースは1.5kmからハーフマラソンまであり、年齢・体力に合わせて距離が選べます。家族で楽しめるイベントです。

☎0166-87-2028 (鷹栖町教育委員会)



イベント
盛りだくさん!



たかす秋の大収穫祭

9月
下旬

町の味覚が一堂に会するイベント。新鮮野菜や特産品の販売、新米を特別価格で購入できる「特売予約券」を限定配布。会場内には町内飲食店などの屋台が並びます。

大好評の鷹栖牛即売会、新米特売会は売り切れが予想されるので、お早めにお越しください。

☎0166-87-2111 (鷹栖町産業振興課)

☎0166-87-2210 (鷹栖町商工会)

秋



夏

熱夏フェスタ

8月
上旬

鷹栖町の短い夏を思いっきり楽しむ祭りです。見どころは、大人も子どもも参加する勇壮な神輿など。町内のストリートダンスサークル「IZATAKA」らによる迫力あるダンスも楽しむことができます。

このほかキャラクターショー、ディスコナイトなど、ここならではのイベントが盛りだくさん。B級グルメから子どもが喜ぶメニューまで揃う屋台は、30店舗以上が並び、ご当地グルメがたっぷり味わえます。祭りの終わりを告げる花火大会も壮観です。



2



1



3

- ①祭りのフィナーレを飾る、大迫力の花火。
- ②大人も子どもも参加する神輿が祭りを盛り上げます。
- ③迫力ある鷹栖町のダンスチーム「IZATAKA」のダンス。

☎0166-87-2111 (鷹栖町産業振興課)

たかす歩くスキーフェスティバル

3月
初旬



セント旭川ゴルフ倶楽部クロスカントリーコースを活用した冬の一大スポーツイベント。歩くスキーで雑木林や丘陵地をさっそうと滑りぬけ、パレットヒルズからは冬の街なみを一望できる起伏に富んだ楽しいコースです。年齢・体力に合わせてコースが選べます。小中学生やそれ以下のお子さんまで毎年多数参加しており、家族で楽しめる冬のイベントです。

☎0166-87-2028 (鷹栖町教育委員会)

冬

